

# 第27号 ぶんきんニュース

2013/2/8



ぶんせき秘帖～巻ノ六～

----- 目 次 -----

|                 |      |
|-----------------|------|
| ☆ 行事予定          |      |
| ・ 第1回 提案公募型セミナー | p. 2 |
| ・ 第1回 支部講演会     | p. 3 |
| ☆ 報告            |      |
| ・ 第1回 支部講演会     | p. 4 |

-----

## 行事予定

### 第1回提案公募型セミナー

主催：(公社) 日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇話会

共催：(公財) 関西文化学術研究都市推進機構、ミネルバライトラボ

協賛：(一社) 近畿化学協会、(公社) 日本化学会近畿支部、  
日本電磁波エネルギー応用学会、分離技術会

期日：2013年2月14日(木) 13:00~17:00

場所：関西文化学術研究都市 けいはんなプラザ 中会議室(黄河)

[京都府相楽郡精華町光台1-7、電話0774-95-5111(代)]

詳細は<http://www.keihanna-plaza.co.jp/access/>をご覧ください。

内容：分析化学とマイクロ波化学の接点を探り、省エネ、高選択性試薬合成法や環境試料などの分析法への適用についてセミナーを通して討論し、マイクロ波化学の分析化学への展開を図る。

講演：

1. リグノセルロース包括構造解析とマイクロ波を利用したバイオ燃料・機能性物質への変換(京大生存圏研) 渡辺隆司
2. 計算化学が予見するマイクロ波駆動化学(阪大名誉) 柳田祥三

技術レポートおよび提案講演：

1. 分析定量のためのマイクロ波前処理法(マイルストーンゼネラル) 後藤将治
2. マイクロ波発生装置の分析化学・環境科学への応用(紀本電子) 紀本岳志

研究交流会(17:15~18:30頃)

参加費：聴講：一般 2,000円、学生 無料(何れも資料代含む)

研究交流会：一般 3,000円、学生 1,500円※参加費は当日申し受けます。

申込方法：標記セミナー名を題記し、1)氏名、2)勤務先(所属)、3)連絡先(住所、TEL、E-mail)、4)交流会参加の有無、5)所属学協会を明記のうえ、下記宛お申し込み下さい。参加証は発行致しませんので、直接会場にお越し下さい。

問合先：京都府相楽郡精華町光台1-7(有) ミネルバライトラボ 松村竹子

電話/FAX：0774-95-0189 E-mail：mll@gamma.ocn.ne.jp <http://www.mll.jp/>

申込先：(公社) 日本分析化学会近畿支部

[〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター6階

電話：06-6441-5531 FAX：06-6443-6685 E-mail：mail@bunkin.org]

## 第1回支部講演会

主催：(公社) 日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇話会

期 日：2013年4月12日(金) 15:00~17:15

場 所：大阪科学技術センター7階700号室

[大阪市西区靱本町1-8-4, 電話:06-6443-5324 交通:地下鉄四つ橋線「本町」駅  
下車, 北へ徒歩約7分うつぼ公園北詰]

講 演：1. 「分子認識材料の開発と分離・分析への応用」

(15時~15時45分) 京大院工 久保拓也

2. 「金属錯体が関与する溶液内電子移動反応の研究を顧みて」

(15時45分~16時30分) 奈良女大理 塚原敬一

3. 「カーボン電極と出会って40年が過ぎました」

(16時30分~17時15分) 立命館大生命科学 白石晴樹

参加費： 無料

申込方法：「第1回支部講演会参加申込」と題記し、(1)氏名、(2)所属、(3)連絡先(E-mail, TEL, FAX)を記入のうえ、下記申込先へFAXまたはE-mailにてお申し込み下さい。

参加証は発行しませんので、直接会場にお越し下さい。

申込先：(公社) 日本分析化学会近畿支部

[〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター6階  
電話:06-6441-5531 FAX:06-6443-6685 E-mail:mail@bunkin.org]

## 報 告

### 日本分析化学会近畿支部 第6回夏季セミナー ぶんせき秘帖～巻ノ六～

主 催：日本分析化学会近畿支部、近畿分析研究懇話会

共 催：日本分析化学会若手交流会

会 期：平成 24 年 8 月 3 日（金）11:00～8 月 4 日（土）12:00

会 場：グリーンビレッジ交野（〒576-0033 大阪府交野市私市 9-4-5）

プログラム：

特別講演（1 件）

- ・大阪市立大学名誉教授 市村 彰男 氏  
「vs 分析化学」

依頼講演（4 件）

- ・京都大学 化学研究所 長谷川 健 氏  
「世の中の役に立つべき分光解析化学」
- ・京都大学 大学院工学研究科 久保 拓也 氏  
「分子認識材料の開発と分離・分析への応用～生体応用を夢見て?～」
- ・大阪府立大学 大学院工学研究科 遠藤 達郎 氏  
「異分野からの分析化学～学際的視点で研究してみよう～」
- ・京都大学 大学院薬学研究科 石濱 泰 氏  
「オミクスワールドへのいざない」

今年度の日本分析化学会平成夏季セミナー「ぶんせき秘帖～巻ノ六～」は、8 月 3 日～4 日にかけて、大阪・京都・奈良の三重点付近にある大阪府交野市私市のグリーンビレッジ交野にて開催された。懸念していた台風の接近や計画停電の影響はなく、快晴の空のもと、学生 58 名、一般 19 名（講演者含む）と多くの参加者が集まった。日程は、ややタイトではあったが、多くの参加者が見込めることから昨年度と同様に 1 泊 2 日で行う事とした。

依頼講演は、ここ 2,3 年の間に近畿の大学に異動され、これからの近畿支部を牽引する先生方をお願いした。トップバッターとして京都大学化学研究所の長谷川健先生から「世の中の役に立つべき分光解析化学」という題目でご講演頂いた。冒頭に夏休みドリルという形で分光分析に関する基礎的な（しかし良く考えないと答えられない）問題を 11 題頂いた。非線形光学現象のような高度な分光学を用いることや薄膜試料を測定するときの注意点、量子化学計算と実



長谷川先生ご講演



市村先生ご講演

験データが原理的に比較できない事など、普段は深く考えず間違った結論を導き出しかねない諸問題について、ご講義を頂いた。さらに、化学者がこれらの危険性を的確に察知できるよう、分析化学の教育も改変の時期であるのご指摘をされており、新しい分析法を開拓する我々にとって、これは大きな課題である。

昼食（学生諸君にはカレー一杯は少なかったようである。）を挟み、大阪市立大学名誉教授の市村彰男先生に、「vs. 分析化学」という題目で特別講演を頂いた。市村先生は、本セミナーの始まった2006年度に近畿支部支部長を務められ、ぶんせき秘帖の生みの親の一人である。化学分析 vs. 物理分析、マクロ分析 vs. ナノ分析、バルク分析 vs. 界面分析というように、分析化学に関する二律相反の世界についてご講演頂いた。現

在の機器分析はほとんどが物理分析法を用いたものであり、かなり粗い測定をしているが細かいことを議論したがるのに対し、化学分析では細かい実験を行い、詳細な議論ができるにもかかわらず、それを主張しない。これは教育上の問題で、長さ・時間・電流などの物理量を測定する道具は初等教育の頃から馴染みがあるが、化学に関する量、つまり物質量を測定する道具が無いことが一つの要因であると主張された。物質量計を開発すれば、化学教育の底上げになるというご提案をされた。



久保先生ご講演

続いて、今年度から東北大学より京都大学にお越しになった久保拓也先生に、「分子認識材料の開発と分離・分析への応用～生体応用を夢見て?～」という題目で、ご自身のご研究についてお話を頂いた。久保先生は1990年代より発展してきた分子インプリント法による、選択的分子認識の応用研究を一貫して行われている。ご講演では、最初に分子インプリント法の問題点をいくつか挙げ、それらに対して先生が実際に行われた解決例を示すという形で、非常に明快なお話をいただいた。

その後、毎年恒例となっている全員の自己紹介を行った。例年の通り、一人一分の持ち時間で1枚のOHPを使用したスタイ

ルを踏襲した。近畿支部らしく笑いの絶えないものとなり、参加者は、自身の性格や夢、ポスターのアピール、参加理由などを述べた。

夕食は、例年バーベキューを行っていたが、本年は時間の都合上、オードブルを注文し、立食の懇親会形式とした。「宴会部長」紀本氏の乾杯の音頭から始まり、学生同士大いに懇親が出来ていたように感じる。やや部屋が狭かったのと、時間が少なかったこともあり、アンケートでは少々不評であった。これは次回への申し送り事項とし、改善を図りたい。

夕食後、ポスター発表を行った。今回は52件のポスターが集まった。酒を飲みながら、ざっくばらんに研究発表や議論を行うこのスタイルも第一回から続いているものである。先に行った自己紹介や酒の力もあり、参加者同士が話しかけやすい雰囲気が出来上がっており大変盛況となった。研究に対する討議はもちろんの事、実験を実施する学生達の本音を垣間見ることができた。



ポスター発表の様子

一日目最後のイベントは、兵庫県立大学水谷研究室の皆さんにお願いした、学生企画であった。グループ対向で、絵を使った伝言ゲームを行った。既にほとんどの参加者が十分に酒を飲んでおり、伝言ゲームは

困難を極めたが、そこはさすがに分析化学の研究者達で、わずかな情報から答えを探り当てる力に光るものを感じた。その後は、広めの和室を2つ利用して自由懇親会が行われた。つまみやビールを片手に、研究室や就職に関する話題などで大変盛り上がっていた。宿舎には他の団体もなく、就寝時間の規定もなかったので、夜の部は延々と続けられた。



学生企画の様子



自由懇親会

2日目はまず、大阪府立大学久本研の遠藤達郎先生に「異分野からの分析化学～学際的視点で研究してみよう～」という題目でお話を頂いた。遠藤先生は学部時代の専攻は電気工学で、例えば学生実験では化学とは全く無縁（放電実験やレーザーの作成など）だったそうである。また修士課程・博士課程ではナノフォトリソグラフィーの研究をされ

ていた。それらの経験が分析化学にどのように生かされるかを、学生達に語りかけるようにご講演された。学際的な研究を行うことで、いろいろな分野の人と交流を持ち、視野を広げることが出来る、自分自身の伸び代が大きくなる、などの利点がある。学生にとって示唆に富む内容のお話を頂いた。

本セミナー最後のご講演として京都大学の石濱 泰先生に「オミクスワールドへのいざない」という題目で、お話をうかがった。遠藤先生とは対照的に、分析化学から他の分野への参入したご経験をお話し頂いた。プロテオミクスの進歩は現在分析化学が律速となっているようである。通常その解析には液体クロマトグラフ質量分析法 (LC-MS) が使用されている。MS は目覚ましいスピードで高性能化しているにもかかわらず、LC 部は 20 年もの間ほとんど変化がなく、石濱先生はここに着目された。プロテオミクスのような学問分野を発展させるためには、生化学や細胞生物学、医学薬学を含む総合力が必要であるが、分析化学の基礎が堅固であるからこそ成果を挙げられることが良く分かるお話をうかがえた。



遠藤先生ご講演



石濱先生ご講演

2 日目の 2 講演は、学際的な研究を分析化学の内側と外側から見た先生方のご経験をうかがえ、我々若手研究者や学生の皆さんには、非常に良い機会となった。

ポスター賞には、参加者からの投票を基に関西学院大院理工 谷村恵里香さん、同じく 宮田真衣さん、大阪大院理 片山和也さん、同じく 立本絵里さん、和歌山大院システム工 尾崎温美さん、京都大院農 宋慶盛さんが選出された。閉会にあたりポスター賞の授賞式を行った。

今回ご講演頂いた先生方は、アカデミックで第一線を進んでいる方々であり、私自身としては非常に興味深くお話を伺うことが出来た。アンケートでも、先生方のご講演が印象に残っているとの意見を多く頂いた。しかし、企業の人のお話も聞きたいという意見も少なからずあった。また、時間がタイトであった点も不評であり、スケジュールについては、まだまだ改善の余地がある。ともあれ、学生同士の交流が芽生えて良かった、ポスターでの議論が楽しかった、など、本会の目的に対してポジティブな意見が大部分であり、実行委員長としては胸を撫で下ろしている。

本会を開催するにあたり、前年度実行委員長の永井秀典氏 (産総研) をはじめ、上

原氏（京都大）、西氏（京都大）、末吉氏（京都大）、北隅氏（京都大）、久本氏（大阪府立大）、吉田氏（京都工繊大）、安川氏（兵庫県立大）、中原氏（和歌山大）、杉原氏（住友電工）、川崎氏（関西大）、高橋氏（京都大）、鈴江氏（紀本電子工業）の各先生方には、実行委員として、多くのアドバイスやご尽力を頂いた。また、才寺様、真田様をはじめとする日本分析化学会近畿支部の皆様には、事前準備や会計関係など大変お世話になった。そして、カンパや差し入れを頂いた近畿支部の先生方にはこの場を借りて御礼を申し上げたい。最後に、学生企画

を盛り上げて頂いた兵庫県立大学水谷研の学生の皆様、運営にあたり飲食物の買い出しや運搬、会議室準備など多岐にわたるサポートを頂いた大阪大学塚原研の学生の皆様には深く感謝申し上げます。

来年度は、和歌山大学の中原佳夫先生に実行委員長をお願いした。既に宿泊施設や日程などプランを立てられておられるようで、盛会になることは間違いないと思われる。近畿支部の学生諸君や先生方には奮ってご参加頂きたい。

（阪大院理 諏訪雅頼）



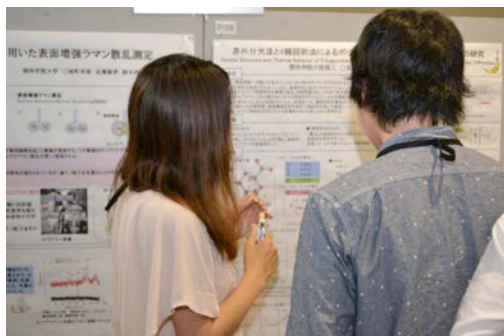
## ぶんせき秘帖に参加して

宮田 真衣 (関西学院大学院理工 M1)

グリーンブリッジ交野にて開催された、日本分析化学会近畿支部第6回夏季セミナー、ぶんせき秘帖～巻の六～に初めて参加させていただきました。ぶんせき秘帖では、講演・自己紹介・懇親会・ポスターセッション・学生企画とさまざまな企画が用意されており、とても充実した2日間でした。

講演では、研究分野と密接に関係する分光解析化学のお話から、自分の研究分野とは異なる分野の最先端の話まで幅広く講演を聞かせていただくことができました。またvs分析化学や異分野から見た分析化学についてなど、普段とは異なる視点から見た分析化学についてのお話が多く、分析化学の重要性や必要性について再確認することができました。

ポスターセッションでは、アルコールもあり普段の学会とは少し異なる、打ち解けた雰囲気で行うことが出来ました。また参加者の多くが学生であったこともあり、質問もしやすく、基礎的なことから議論することが出来ました。自分の研究目的や結果など「どのように説明したら、相手にわかりやすく、しっかり伝えられるのか」考えさせられるポスター発表になりました。



今回のぶんせき秘帖に参加して最も印象に残っていることは、多くの学生や研究者の方々と交流することができたことです。夜の懇親会、学生企画ではもちろんですが、部屋割りも他大学の学生と同じ部屋で、当日初めて顔を合わせたメンバーでしたが夜遅くまで話をし、大変盛り上がりました。同世代の学生から研究の話を聞くことでとても刺激を受けました。



また、今回のぶんせき秘帖では、ポスター賞をいただくことが出来ました。研究成果を発表し、賞をいただいたことは初めての経験でとても嬉しく感じましたし、これからの研究活動の自信にも繋がりました。

2日間を通して、多くの研究者や学生の方々と交流できたこと、また研究についてたくさん議論をすることができ、貴重な時間を過ごさせていただきました。この2日間の経験も活かし、今後も研究活動に励んでいきたいと思えます。そして、また来年のぶんせき秘帖で発表することを楽しみにしております。

最後になりましたが、ぶんせき秘帖を企画・運営していただきましたスタッフの方々、学生企画で楽しませてくださった兵庫県立大の皆様には厚く御礼申し上げます。

## ぶんせき秘帖～巻ノ六～に参加して

片山 和也 (阪大院理 D1)

グリーンビレッジ交野にて行われました日本分析化学会近畿支部第6回夏期セミナー ぶんせき秘帖～巻の六～に参加させていただきました。私は、昨年度のぶんせき秘帖にも参加させていただいており、先生方の講演や、ポスター発表・学生企画・飲み会の席での他大学の方々と交流を通して、とても有意義な時間を過ごすことができたため、今回のぶんせき秘帖に参加することも楽しみにしていました。

OHPを用いて行われた自己紹介は、個性的な自己紹介が続き、個人的なキャラクターもさることながら、それぞれの研究室の雰囲気もこちらに伝わってくるパワフルなもので大変楽しませてもらえました。

夕食では、お酒を飲みつつ先生方や他の大学の方とフランクな交流をすることができ、非常に貴重な時間を過ごすことができました。

夕食後行われたポスター発表では、お酒を飲みつつ行われるため、普段よりもくだけた発表となりますがその分議論が白熱し、突っ込んだ質問を受けることもあり、普段自分では気付かない問題点や新しい見解を見つけることができました。また、こちらからの質問にも丁寧に答えていただき、自分が知らなかった分析法や考え方を知ることができました。

懇親会では、日頃の研究の話や趣味の話などを通し、多くの方とさらに親睦を深めることができました。また、オリンピック期間ということもあり、女子サッカーの試



表彰式にて

合を多くの方と熱く応援できたことが、非常に印象に残っています。

1日目、2日目を通して5講演行われた先生方の講演では、研究の内容をわかりやすく説明して頂き、多くのことを学べたとともに、分析化学という分野を多角的な視点から見ることができ、日頃、自分の研究で手一杯となり、視野が狭くなりがちな私には、非常に刺激になりました。

今回のぶんせき秘帖に参加することによって、多くの方と交流できたとともに、研究に対するモチベーションの上げることができました。ありがとうございました。次回のぶんせき秘帖でも、宜しく願います。

最後になりましたが、ぶんせき秘帖を企画・運営して下さった皆様、参加された皆様に御礼申し上げます。

## ぶんせき秘帖～巻ノ六～に参加して

宋 慶盛（京大院農 M1）

この度は、日本分析化学会近畿支部第6回平成夏季セミナーに参加させて頂きました。分析化学会に参加することや、ポスター発表することが初めてだったので、少し緊張していました。しかし、お酒を飲みながらの立食パーティーや、面白い学生企画のおかげで雰囲気が和らぎ、数多くの先生や友達と知り合えて大変充実したものになりました。

僕の研究テーマは「バイオ電池」であり、普段の実験などでは、分析化学にあまり馴染みがありませんでした。ところが、各先生の御講演を拝聴しているうちに、分析化学などの基礎的な学問がいかに重要であるかを痛感させられました。異分野の学問を知れたことで、これから進めて行く研究の幅が大きくなったように感じます。また、久保拓也先生の「分子認識材料の開発と分離・分析への応用～生体応用を夢見て?～」という御講演を拝聴して、僕の研究と共通点が多くあるなと感じました。御講演終了後、「こんな考え方があるのだな」や「こんな実験方法もあるのだな」と新しい視点を持つことができました。

夕食後に行われたポスターセッションでは、様々な研究に触れ、活発に議論できて非常に楽しかったです。また、僕のポスター発表時にも、色々な先生や、新しくできた友達と議論できて良かったです。初めてのポスター発表でしたので、最初は上手に説明できなかつたのですが、お酒の力もあってか、途中から納得のいく発表をする

ことができました。議論してく上で、厳しい意見や、提案、ヒントなどを頂くこともできて、とても感謝しています。

その後、どんどん記憶が断片的になっていくのですが、最終的に、廊下の長椅子で朽ち果てるまで、学生企画、新しくできた友達と他愛もない会話や、真面目な話、バカな話をできて非常に楽しかったです。これからも仲良くしていきたいなと思いました。たった二日間という短い時間でしたが、多くの仲間を作ることができて本当に参加してよかったなと思いました。

最後になりましたが、企画、運営に携われた、実行委員の皆様、学生企画を盛り上げて下さった学生の皆様、参加者の皆様に、深く御礼申し上げます。



自己紹介



断片的な記憶の一つ

## ぶんせき秘帖～巻ノ六～に参加して

立本 絵里 (阪大院理 M1)

グリーンビレッジ交野にて行われました日本分析化学会近畿支部主催第6回夏季セミナー「ぶんせき秘帖～巻ノ六～」に参加させて頂きました。

今回が私の初めての参加となった夏季セミナー。この夏季セミナーは講演、ポスターセッション、学生企画、自由懇親会など盛りだくさんの内容で他大学の方々と交流できる貴重な機会となりました。

初日は講演を聞き自己紹介が行われました。自己紹介でも言ったことなのですが、私は4月に大阪大学大学院入学と同時に大阪に引っ越してきて、それまでずっと広島で生活してきたので、この機会にぜひ近畿圏の友達を作りたいと思っていました。とは言っても実際は人見知りなので仲良くなれるのか不安でした。自己紹介を聞いていると個性的な人が多く、その後の夕食では全体的にあたたかい雰囲気ですぐに解消されました。

夕食の流れのままポスターセッションへ。私はポスターセッションが初めてでしたが、あたたかい雰囲気のおかげで緊張することもなく、先生方からご指摘を頂いたり、学生同士でディスカッションをしたりすることができて非常に有意義なものになりました。この経験を研究、次の発表会などに活かしていきたいと思います。

そして学生企画ではグループ対抗で絵

をリレーするというゲームがありました。私のグループは残念ながら一度もリレーは成功できませんでしたが、そんなに難しくはないはずのお題のペンギンがリレーするごとにUF0のようになっていったのが驚異的で印象的で、何だか絆が生まれた気がしました。自由懇親会では研究以外でも他愛無い話から深い話までできて、交流の輪がさらに広がり親睦も深まりました。



学生企画の写真

二日目の講演でもありましたが、様々な分野の研究について知見を深めること、様々な分野の研究をしている人と知り合い、コミュニティを広げることは、自分の研究を深めていく上で大切なことになり、自分自身の成長にもつながることだと思います。今回はまさにそのようなつながりを作れる機会だったので、そのつながりを今回だけのものにせず、今後も大切にしていきたいと思います。

最後になりますがぶんせき秘帖の企画や運営に携わった方々、参加された方々に厚く御礼申し上げます。来年もぜひ参加できればと思います。

## ぶんせき秘帖～巻ノ六～に参加して

谷村 恵里香 (関西学院大院理工 M1)

大阪府交野市のグリーンビレッジ交野で行われた日本分析化学会近畿支部第六回平成夏季セミナー「ぶんせき秘帖 巻ノ六」に参加させていただきました。今回、ぶんせき秘帖へ初めての参加でしたが、先輩方から伺っていたとおり、非常に楽しく、有意義な時間を過ごさせていただきました。また、若手優秀賞をいただき、大変嬉しく思っています。ありがとうございました。

開催日は非常にいい天気で、グリーンビレッジ交野には目の前に川があり、講演だけでなくアウトドアも楽しめ、素敵な場所でした。

講演では、通常の学会で聞くことができる最先端の研究内容だけではなく、企業での研究の話や異分野を織り交ぜた分析化学の話、先生方の現在にいたるまでの話など、普段聞くことができない大変貴重なお話を聞くことができました。

一人ひとり自己紹介したあと、すでに酔っぱらっている先生方を横目に(笑)、私達も負けじと飲みながら夕食を楽しみました。研究を通じた他大学の学生との交流が夢だった私は心踊り、いろいろな方とお話させていただきました。打ち解けた雰囲気のまま、ポスター発表へ。私はかなり緊張しいのですが、「お酒片手に」ということもあり、フランクに議論することができました。「減衰全反射遠紫外分光法を用いたポリエチレンのスペクトルと表面構造の研究」というテーマで発表させていただ



ポスターセッション

きましたが、多くの先生方や学生さんに聞いていただき、今後の研究の参考になる貴重なアドバイスもいただきました。また、発表を聞きに行ったときに気軽に質問することができたのも、このお酒片手のポスターセッションの雰囲気のおかげだと思っています。

学生企画では、チームにわかれて絵の伝言ゲームを行いました。多くの画伯達の素晴らしい作品(笑)を見ることができました。そのまま自由懇談会に移り、ここでも先輩、同期、後輩の普段聞くことができない貴重な話(笑)を聞くことができました。とても楽しかったです。ぶんせき秘帖で出会った方々となかなかお会いすることができないのは非常に残念ですが、何人かは9月に金沢で行われた年会でお会いできたので嬉しかったです。

最後になりましたが、ぶんせき秘帖を企画・運営していただきました諏訪先生をはじめ、実行委員の方々、学生企画で楽しませてくださった兵庫県立大の水谷研究室の皆様には厚く御礼申し上げます。

## ぶんせき秘帖～巻ノ六～に参加して

尾崎温美（和歌山大学大学院・M1）

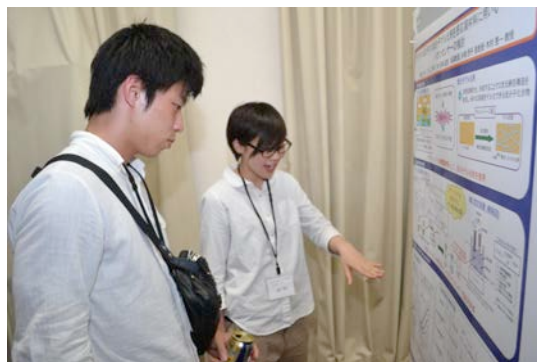
先日は、日本分析化学会近畿支部主催第6回夏期セミナー『ぶんせき秘帖～巻ノ六～』へ参加する機会を頂き、そこで様々な視点からのご講演や、自分の研究についての貴重な意見を頂くことができ、大変充実した2日間でした。

去年参加された研究室の先輩からお話を伺っていたため、ぶんせき秘帖の存在は知っていましたが、実際に参加してみると私が抱いていたイメージとは全く異なり、とても参加しやすいセミナーであると感じました。和歌山大学は関西の中心から離れた場所に位置するので、他大学の方との交流があまり行われていないため、他大学の方と意見交換ができる貴重な機会でもあったと思います。様々なテーマで行われたご講演に関しましては、研究室での生活にも慣れてきたところだった私に、もう一度化学とは何か、そして当たり前を当たり前と思わないことの大切さを再確認する機会となりました。まだまだ化学という世界に入って間もなく、素人に毛が生えたレベルだと思い、何事にも一生懸命取り組んでいこうと気持ちを新たにすることができ、ご講演して頂いた先生方には厚く感謝します。

1日目のポスターセッションでは、自分の研究内容と似たテーマから全く聞いたことのないテーマまで多種多様な研究があり、自分の知識の幅を広げることができたと思います。全く堅苦しくない雰囲気なので質問もしやすく、発表者の方も一から説明して下さったので、とても楽しく話を伺うことができました。また、同年代の皆さんのポスターセッションの様子を見学させてもらうことで、真似した部分や自分に足りない点を発見することができた

ため、今後の研究生生活に活かしていきたいと考えています。

その後に行われた学生企画では、大学も関係なくゲームを行い、進行やそこで出た名回答におなかが痛くなるくらい笑わせてもらいました。あんな大人数で一つのゲームをする機会は久しぶりだったので、とても楽しかったです。その後催されたお酒の席では、お互いの研究内容についてだけでなく趣味の話や普段の研究室での生活など、話の種は尽きることなく夜遅くまでたくさんの方とお話することができ、とても楽しかったです。



最後になりましたが、今回のぶんせき秘帖を行うにあたりまして当日の進行だけでなく、事前準備等をして下さった皆様に御礼申し上げます。今回、このように大変有意義な2日間を過ごせたのも、皆様のおかげだと思います。

来年度は和歌山大学が担当しています。ぜひ多くの方々に参加して頂ければ幸いです。

\*\*\*\*\* 日本分析化学会近畿支部 \*\*\*\*\*

あとがき:新しい年がスタートして早くもひと月が経ちました。中国からの大気汚染物質が日本まで到達との記事が新聞紙上を賑わせています。くすんだ空を見ながら環境と分析化学について思いを巡らせました。

(壺井基裕)